

2023年7月25日

2023年7～9月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査

経済活動が着実に正常化 県内産業景気は緩やかに回復

静岡経済研究所（理事長 馬瀬和人）では、6月に実施した「静岡県内主要産業四半期見通し調査」の結果をとりまとめましたので、その内容をお知らせします。

現況

- 県内産業の現況（2023年4～6月期）は、『順調』が「工作機械」「民生用電器部品」「二輪車部品」「情報サービス」の4業種、『普通』が「製紙」「自動車部品」「建設」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「観光・レジャー」の7業種となった。
- 『低調』は「食品・飲料」「住宅」「大型小売店」「外食」の4業種で、『好調』および『不調』の業種はなかった。

今後の見通し

- 2023年7～9月期の見通しについては、引き続き『好調』と『不調』の業種はなく、「民生用電器部品」が『順調』から一段階下降して『普通』となる一方、「大型小売店」と「外食」が『低調』から一段階上昇して『普通』となるため、『順調』が3業種、『普通』が10業種、『低調』は2業種となる見通し。
- 本県主力の自動車産業で半導体不足の影響が長引くなど一部で足踏み感がみられるものの、新型コロナの5類移行に伴って県内の経済活動は正常化。全15業種中12業種で売上高が前年を上回る見通しで、全体的に持ち直し傾向が続く見込み。
- ただし、依然として原材料・エネルギー価格の高止まりや海外経済の不透明感などの不安材料が残るほか、経済活動の回復に伴って人手不足が一層深刻化する恐れもある。

業種	業界天気	
	現況 (4-6月)	見通し (7-9月)
製紙		
食品・飲料		
工作機械		
民生用電器部品		
自動車部品		
二輪車部品		
建設		
住宅		
大型小売店		
自動車販売		
物流		
情報サービス		
人材派遣		
観光・レジャー		
外食		

※本件のお問合せ先 主任研究員 大石 彰男

〈8月の記者発表予告〉下記の調査について記者発表を予定しています

「静岡県版 景気ウォッチャー調査（2023年7月）」

経済活動が着実に正常化、県内産業景気は緩やかに回復

業界景気の現況（2023年4～6月期）

県内産業の現況（2023年4～6月期）は、『順調』が「工作機械」「民生用電器部品」「二輪車部品」「情報サービス」の4業種、『普通』が「製紙」「自動車部品」「建設」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「観光・レジャー」の7業種、『低調』が「食品・飲料」「住宅」「大型小売店」「外食」の4業種で、『好調』および『不調』の業種はなかった。

業界景気の見通し（2023年7～9月期）

7～9月期の見通しについては、引き続き『好調』と『不調』の業種はなく、「民生用電器部品」が『順調』から一段階下降して『普通』となる一方、「大型小売店」と「外食」が『低調』から一段階上昇して『普通』となるため、『順調』が3業種、『普通』が10業種、『低調』は2業種となる見通し。本県主力の自動車産業で半導体不足の影響が長引くなど一部で足踏み感がみられるものの、新型コロナの5類移行に伴って県内の経済活動は正常化。全15業種中12業種で売上高が前年を上回る見通しで、全体的に持ち直し傾向が続く見込み。ただし、依然として続く原材料・エネルギー価格の高止まりや海外経済の不透明感などの不安材料が残るほか、経済活動の回復に伴って人手不足が一層深刻化する恐れもある。

業種ごとにみると、製造業では、高水準な受注環境が続く「工作機械」、完成車メーカーが前年を上回る生産計画を立てている「二輪車部品」が『順調』を維持する一方、「民生用電器部品」は、在庫が高水準となっているため夏場の増産が見込み難く『普通』に一段階下降する見通し。本県主力の「自動車部品」も長引く半導体不足の影響で本格的な増産には至らず『普通』にとどまる模様。また、価格改定が寄与する「製紙」は『普通』を維持するが、「食品・飲料」は原燃料高で厳しい収益環境が続き『低調』のまま推移する見通し。

非製造業では、幅広い分野でデジタル化投資が旺盛な「情報サービス」が『順調』を維持。新型コロナの5類移行による人流の回復を受けて、来客数が増加するなど百貨店が好調な「大型小売店」と、来客数・売上の回復が続く「外食」が『低調』から『普通』へ一段階上昇する見込みで、夏休みに期待がかかる「観光・レジャー」も『普通』を維持する模様。災害復旧関連工事や民間の大型案件が見込まれる「建設」、納車遅れの改善が進む「自動車販売」、輸送用機器のほか食料品・飲料などの消費関連需要が底堅い「物流」、夏休みを迎えて観光関連など幅広い職種での需要増が期待される「人材派遣」も『普通』のまま推移する見込み。

一方、住宅価格の高止まりや物価高で購入意欲が上向かない「住宅」は、『低調』のまま推移するとみられる。

2023年7～9月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

業種	業界天気		売上高 (前年同期比伸び率)	主要産業の見通し
	現況 (4-6月)	見通し (7-9月)		
製紙		→ 	➔	生産量は弱含みだが、価格改定が寄与し収益は改善
食品・飲料		→ 	➔	堅調な需要が見込まれるも、原燃料高で厳しい収益環境が続く
工作機械		→ 	➔	受注環境が緩やかに回復し、受注総額は持ち直す見通し
民生用電器部品		→ 	➔	在庫水準が高く、生産は抑制傾向で前年比減
自動車部品		→ 	➔	国内生産は前年を上回るも、半導体の調達難の影響拭えず
二輪車部品		→ 	➔	部品調達は改善傾向続き、生産台数は前年比増加
建設		→ 	➔	公共は災害復旧関連で、民間は大型案件の着工で増加見通し
住宅		→ 	➔	住宅価格の高止まりや物価高で、住宅購入意欲は好転せず
大型小売店		→ 	➔	来客数の増加で、販売額は前年をやや上回る見通し
自動車販売		→ 	➔	販売台数は前年を上回るも、コロナ前の水準までは回復せず
物流		→ 	➔	消費関連が底堅く推移し、輸送量は前年水準をやや上回る
情報サービス		→ 	➔	官民の旺盛なデジタル化需要の下、売上高は順調に推移
人材派遣		→ 	➔	観光関連の幅広い職種での需要増に期待
観光・レジャー		→ 	➔	制限ない夏休みに期待だが、感染再拡大等が懸念材料
外食		→ 	➔	売上は前年を大幅に上回るが、人手不足が業績回復の足かせに

表の見方

業界天気				売上高	
	好調		低調	➔	非常に増加(+10%以上)
	順調		不調	➔	増加(+3~+9%)
	普通			➔	横ばい(+2~△2%)
				➔	減少(△3~△9%)
				➔	非常に減少(△10%以上)

静岡県内主要産業四半期見通し調査「現況」推移

年次	2020年		2021年				2022年				2023年		
四半期	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	
対象月 (○は調査月)	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥	7~⑨	10~⑫	1~③	4~⑥ (今回調査)	
全業種の平均階級値	1.67	1.87	2.47	2.53	2.40	2.60	2.67	2.53	2.80	2.93	2.93	3.00	
好調:5													
順調:4													
普通:3													
低調:2													
不調:1													
業種数	好調 ☀️	1	0	0	0	0	1	1	1	1	0	0	
	順調 ☁️	0	0	2	3	2	1	2	1	2	2	3	4
	普通 ☁️	2	3	5	4	4	5	3	3	5	7	8	7
	低調 ☁️	2	7	6	6	7	7	9	10	7	5	4	4
	不調 ☁️	10	5	2	2	2	1	0	0	0	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(6月調査であれば4~6月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(6月調査であれば7~9月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は以下の通り。
 調査時点…2023年6月上旬
 回答企業…県内主要15業種(169社)

注3) 平均階級値は、好調:5、順調:4、普通:3、低調:2、不調:1とする、15業種の平均値。

各業種および表の見方

製紙 生産量は弱含みだが、価格改定が寄与し収益は改善

【現況】
☁️

↓

【見通し】
☁️

【4-6月期】家庭紙の生産量は、前年をやや下回った模様。価格改定が寄与し、生産量は値上げを反映し、前年並みの水準に届かなかった。工業食品向けの動きが鈍く、生産量は前年をやや下回ったとみられる。

【7-9月期】家庭紙の生産量は前年並みで推移し、売上高は価格改定が寄与し前年を上回る見込み。業務用トイレット紙が回復し、生産量は前年並みで推移する見込み。段原紙は価格改定が寄与し、生産量は前年並みで推移する見込み。白板紙は土産物や化粧品などが回復し、堅調に推移する見通し。

【7-9月期売上高】前年同期比 4-6月期比

→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	均衡	適正	上昇	上昇	0.1~1.0ヵ月

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
100~90%	非常に需要超過	非常に過少	非常に上昇	非常に上昇	ヵ月
89~80%	需要超過	過少	上昇	上昇	
79~70%	均衡	適正	横ばい	横ばい	
69~60%	供給超過	過多	下降	下降	
59%以下	非常に供給超過	非常に過多	非常に下降	非常に下降	

国内紙・板紙生産量(前年比)

資料: 経済産業省

主要業種景況見通し

製紙

生産量は弱含みだが、価格改定が寄与し収益は改善

【現況】



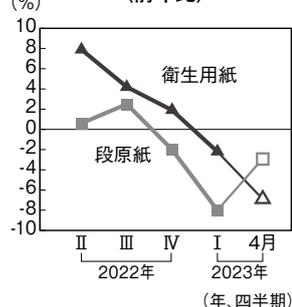
【見通し】



【4-6月期】家庭紙の生産量は、前年をやや下回った模様。価格改定が徐々に浸透し採算面は改善したものの、生産量は値上げ前の駆け込み需要のあった前年水準に届かなかった模様。段原紙は、物価高で主力の加工食品向けの動きが鈍く、生産量は前年をやや下回ったとみられる。

【7-9月期】家庭紙の生産量は前年並みで推移し、売上高は価格改定が寄与し前年を上回る見通し。業務用トイレ紙が回復するほか、タオル用紙も堅調に推移する見込み。段原紙は、電気機器など産業用が振るわず、生産量はやや弱含みで推移する見通し。白板紙は土産物や化粧品向けなどが回復する見通し。

国内紙・板紙生産量 (前年比)



資料：経済産業省

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	均衡	適正	上昇	上昇	0.1~1.0ヵ月

食品・飲料/製茶

堅調な需要が見込まれるも、原燃料高で厳しい収益環境が続く

【現況】



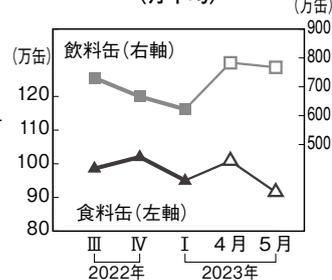
【見通し】



【4-6月期】食品・飲料：県内食料缶メーカーの売上高は、ツナ缶を中心に前年を上回った模様。ただし、原燃料価格の上昇で採算は悪化した。飲料缶類の生産量は、需要回復に伴い前年を上回った。製茶：製茶問屋の売上高は、リーフ茶需要の減少で前年を下回った。

【7-9月期】食品・飲料：県内食料缶メーカーの売上高は、健康志向を背景に堅調な需要が見込まれ、前年を上回る見通し。一方、原燃料高で収益環境は厳しさが続く予想される。飲料缶類の生産量は、飲料需要の増加で前年をやや上回る見通し。製茶：製茶問屋の売上高は、量販店向けが低調に推移し、前年を割り込む模様。

県内食料缶・飲料缶生産量 (月平均)



資料：(一社)静岡缶詰協会

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	上昇	上昇	0.1~1.0ヵ月

工作機械

受注環境が緩やかに回復し、受注総額は持ち直す見通し

【現況】



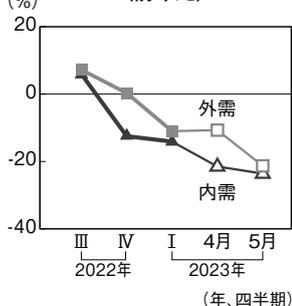
【見通し】



【4-6月期】全国および県内の受注額は、高水準ながら前年を大きく下回った模様。世界経済の先行き不透明感から設備投資への様子見が続き、内外需ともに前年割れとなった。ただし、省人化や脱炭素に向けた設備需要は底堅く、受注総額は依然として高い水準を維持した。

【7-9月期】全国および県内の受注額は、引き続き高水準を見込むが、昨年が活況だったため前年実績の確保は難しい。一方、国内でのコロナ禍の収束や米国におけるインフレの落ち着きなどを受けて、足踏みしていた設備投資が徐々に具体化し、受注総額は前期(4-6月期)を上回り、緩やかに持ち直していく見込み。

国内工作機械受注額 (前年比)



資料：(一社)日本工作機械工業会

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	均衡	適正	上昇	上昇	1.0~14.0ヵ月

民生用電器部品

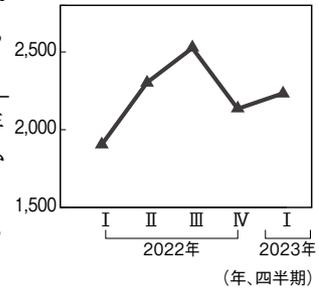
在庫水準が高く、生産は抑制傾向で前年比減



【4-6月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、前年比横ばいで推移した。コロナ禍以降、自宅内での生活時間を快適に過ごす生活家電の需要増により高水準を維持してきたが、足元では買い替え需要が一巡したとみられ、出荷台数はやや鈍化した。

【7-9月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、前年をやや下回る見通し。在庫水準が高くなっていることから夏に向けた増産は見込み難しく、出荷台数は前年を割り込む見込み。冷蔵庫の出荷台数は、コロナ禍で旺盛だった高性能モデルの買い替え需要が一巡していることや、物価高の影響で購買意欲が低下して減少する見通し。

国内 家庭用電気機器出荷額 (月平均) (億円)



資料：経済産業省

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比

→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	過多	上昇	上昇	1.0~3.0ヵ月

自動車部品

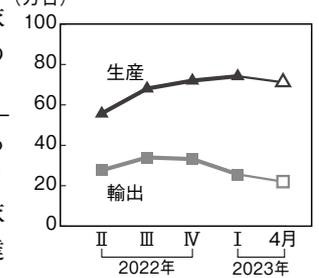
国内生産は前年を上回るも、半導体の調達難の影響拭えず



【4-6月期】全国の自動車生産台数は、中国・上海のロックダウンによる影響で低調だった前年実績を+2割程度上回った。ただし、半導体不足の影響が継続し、依然としてフル生産には至らなかった。県内部品メーカーの生産量も前年を上回ったが、コロナ前には届かなかった。

【7-9月期】全国の自動車生産台数は、前年実績を+5%前後上回る見通し。部品不足は緩和傾向が続き、トヨタなどでは大幅な増産計画を立てるが、半導体を中心に依然として調達難の影響は拭えず、コロナ前の水準には達しない見込み。県内部品メーカーの生産量は、系列により濃淡はあるが、全体的には前年を上回るとみられる。

国内 自動車生産・輸出台数 (月平均) (万台)



資料：(一社)日本自動車工業会

【7-9月期売上高】

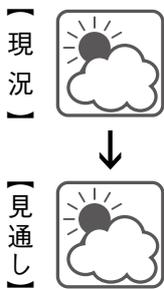
前年同期比 4-6月期比

→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	需要超過	適正	上昇	上昇	0.5~2.0ヵ月

二輪車部品

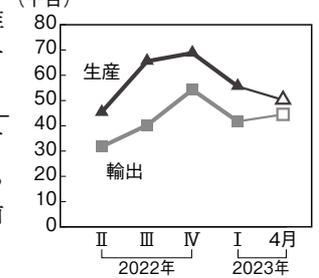
部品調達は改善傾向続き、生産台数は前年比増加



【4-6月期】全国の完成車生産台数は、前年を上回って推移した。前年は半導体などの部品が不足して生産が滞っていたが、今期は部品調達が安定しており堅調に推移した。海外向けの大型車が需要をけん引しており、それに伴い県内部品メーカーの受注量も前年を上回った。

【7-9月期】全国の完成車生産台数は、前年を上回って推移する見通し。コロナ禍で高まった需要は衰えておらず、部品調達も安定傾向にある中、完成車メーカーは前年を上回る生産を計画。県内部品メーカーの受注量も、前年を上回って推移するとみられ、増産に対応すべく人員確保を迫られそう。

国内 二輪車生産・輸出台数 (月平均) (千台)



資料：(一社)日本自動車工業会

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比

→	→
---	---

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	需要超過	適正	上昇	横ばい	1.0~2.0ヵ月

建設 公共は災害復旧関連で、民間は大型案件の着工で増加見通し

【現況】

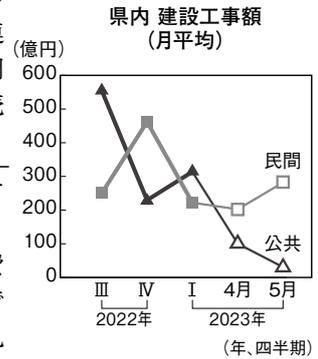


【見通し】



【4-6月期】県内の公共工事契約高は、国関係で大学の改修工事があったほか、市町関係で災害対策・復旧関連工事が続き、前年と同水準を確保したとみられる。民間の工事費予定額は、製造業が堅調だったほか、卸・小売業や教育・学習支援業で前年を上回った模様。

【7-9月期】県内の公共工事契約高は、前年を上回って推移する見通し。市町関係では、前期に続き災害対策・復旧工事の発注が底堅く推移する見込み。民間の工事費予定額は、前年好調だった運輸業や教育・学習支援業では反動減が予想されるが、製造業で大型案件の着工が見込まれるため、前年同期を上回る見通し。



資料：国土交通省、建通新聞社

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	完成工事に在庫水準	原材料価格	工事単価	受注残
89~80%	均衡	適正	上昇	上昇	4.0~11.0ヵ月

住宅 住宅価格の高止まりや物価高で、住宅購入意欲は好転せず

【現況】

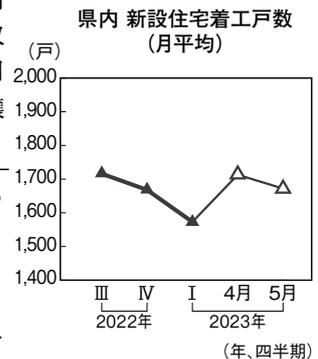


【見通し】



【4-6月期】県内の新設住宅着工戸数は、前年実績と同水準にとどまった模様。住宅価格の上昇で顧客の住宅取得意欲が上向かず、全体の着工戸数が伸び悩んだ。利用関係別では、中部、西部でのマンション着工により分譲は前年を上回ったが、持家は前年を下回った。

【7-9月期】県内の新設住宅着工戸数は、前年を下回る見通し。企業の賃上げや賞与増など所得増に向けた動きはみられるものの、物価の上昇で吸収され住宅購入マインドの好転には至らないとみられる。利用関係別では、分譲は前年を上回るとみられるが、持家と貸家は前年を下回りそう。



資料：国土交通省

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	完成工事に在庫水準	原材料価格	工事単価	受注残
79~70%	供給超過	適正	上昇	上昇	1.0~7.0ヵ月

大型小売店 来客数の増加で、販売額は前年をやや上回る見通し

【現況】

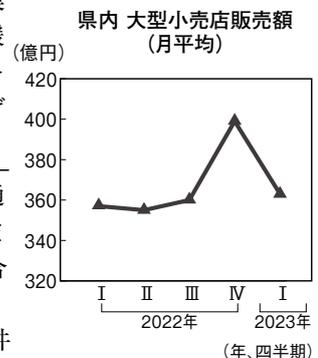


【見通し】



【4-6月期】県内の総販売額は前年をやや上回った模様。百貨店は新型コロナの5類移行に伴う行動制限の緩和で来客数が増加し、前年をやや上回った。総合スーパーは、主力の飲食料品の単価上昇で販売額が押し上げられたほか、衣料品の売れ行きも前年をやや上回った。

【7-9月期】県内の総販売額は前年をやや上回る見通し。百貨店は、行動制限の緩和で来客数の増加が見込まれ、衣料品や化粧品を中心に前年を上回る見通し。総合スーパーは、外食機会の増加で内食需要が弱含むものの、販売単価の上昇で前年をやや上回る見通し。ただし、人件費や光熱費の高騰による収益の下押しが懸念される。



資料：経済産業省

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
-	供給超過	-	上昇	上昇	-

自動車販売

販売台数は前年を上回るも、コロナ前の水準までは回復せず

【現況】

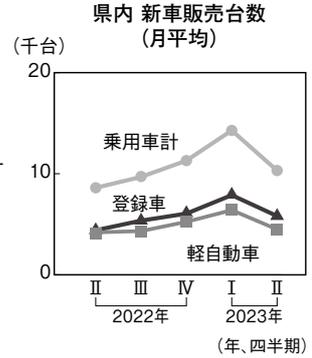


【見通し】



【4-6月期】県内の新車販売台数は、前年比+18.0%と大きく増加した。前年は半導体不足などで車両の供給が需要に追いつかなかったが、今期は供給環境も徐々に改善し、長納期化もやや緩和した。ただし、販売台数はコロナ前の水準まで回復しなかった。

【7-9月期】県内の新車販売台数は、前年を上回って推移する見通し。半導体などの部品不足に伴う車両供給の遅れは緩和され、人気車種の長納期化も徐々に短縮されていく模様。新型コロナが広がると来店客が減少するリスクはあるが、コロナ禍でオンライン接客のノウハウを蓄積したため大きな落ち込みにはならない見込み。



【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
—	需要超過	過少	上昇	上昇	3.0~6.0ヵ月

物流

消費関連が底堅く推移し、輸送量は前年水準をやや上回る

【現況】

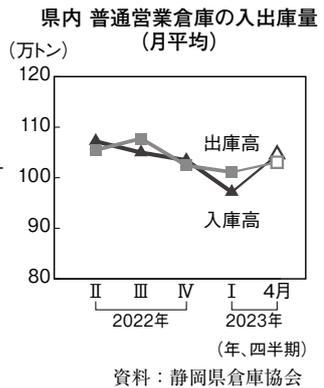


【見通し】



【4-6月期】県内のトラック輸送量は、前年をやや上回る水準で推移したとみられる。主力の輸送用機器や食料品などが堅調に推移した模様。普通倉庫の入出庫高は、電気機械が伸長した一方、紙・パルプや飲料の荷動きが鈍く、全体では前年をやや下回ったとみられる。

【7-9月期】県内のトラック輸送量は、前年をやや上回る水準で推移する見通し。輸送用機器や電気機械のほか、食料品や飲料などの消費関連が底堅く推移すると予想される。普通倉庫の入出庫高は、食料品や飲料、電気機械などの荷動きに期待がかけられ、前年水準をやや上回ると予想される。



【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	燃料価格	サービス単価	受注残
89~80%	均衡	—	上昇	横ばい	—

情報サービス

官民の旺盛なデジタル化需要の下、売上高は順調に推移

【現況】

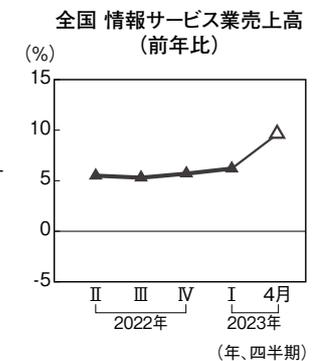


【見通し】



【4-6月期】全国および県内の売上高は、前年をやや上回って推移した模様。デジタル化需要は底堅く、新型コロナの5類移行に伴う経済活動の正常化も後押しとなって、主力のソフトウェア開発が順調に推移した。一方で、人件費や光熱費の上昇が利益を圧迫した。

【7-9月期】全国および県内の売上高は、前年をやや上回って推移する見通し。民需は、幅広い分野でDX投資が加速。官公需も、政府や自治体など行政のデジタル化が進み、堅調な受注環境が続く見込み。ただし、慢性的な人手不足に悩む事業者が多く、案件獲得を断念するケースも出ると予想される。



【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス価格	受注残
90%以上	需要超過	—	—	上昇	1.0~10.0ヵ月

人材派遣

観光関連の幅広い職種での需要増に期待

【現況】



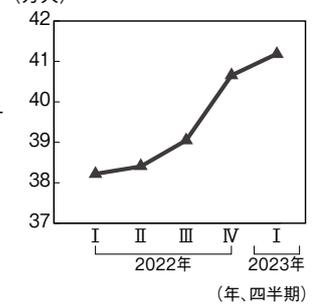
【見通し】



【4-6月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年をわずかに上回った模様。コロナ関連の自治体向け派遣は縮小しているが、行動制限の緩和で人の移動が活発化。観光イベント要員やレンタカーの受付業務など、接客に関する幅広い需要が増加した。

【7-9月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年をやや上回る見通し。製造業は、生産面での制約が薄まっており、本格稼働に向けて需要は底堅く推移する見通し。観光関連も、夏休みを迎え幅広い職種での需要増に期待。派遣単価は、賃上げが追い風となり全体として引上げ傾向にあり、収益面でも改善される見通し。

全国 派遣社員の実稼働者数
(月平均)



資料：(一社)日本人材派遣協会

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



稼働率	需給バランス	製品在庫水準	派遣原価	派遣単価	受注残
89~80%	均衡	—	上昇	上昇	—

観光・レジャー

制限ない夏休みに期待だが、感染再拡大等が懸念材料

【現況】



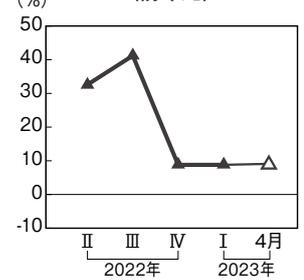
【見通し】



【4-6月期】県内主要旅館の総売上高は、前年をやや上回って推移した模様。大河ドラマによる集客効果や、新型コロナの5類移行に伴う人出の増加はみられたが、全国旅行支援の縮小で大幅な回復には至らなかった。インバウンド客についても低調だった模様。

【7-9月期】県内主要旅館の売上高は、前年をやや上回る見通し。4年ぶりに制限がなく、花火大会や夏祭りなどのイベントが通常開催される夏休みを迎え、首都圏を中心とした近場からの旅行需要回復が期待される。ただし、全国旅行支援終了で消費者が割高感を持ちやすいことや、コロナの感染再拡大などの懸念は残る。

県内 宿泊者数
(前年比)



資料：観光庁

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



稼働率	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス単価	受注残
79~70%	供給超過	—	上昇	上昇	—

外食

売上は前年を大幅に上回るが、人手不足が業績回復の足かせに

【現況】



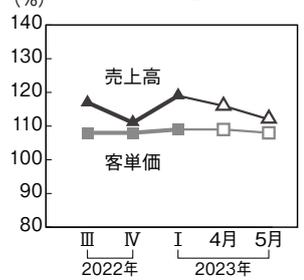
【見通し】



【4-6月期】県内主要外食店の売上高は、低水準だった前年を大幅に上回った。新型コロナの5類移行やイベントの再開などにより、個人客を中心に、来客数、売上が回復した。一方、食料品価格や電気代など光熱費の上昇が続く、収益面は悪化した。

【7-9月期】主要外食店の売上高は、前年を大幅に上回る見通し。イベントの再開などで外出機会が増加し、売上の増加が見込まれる。居酒屋では、個人客を中心に需要が回復し、売上は前年を大幅に上回る見通し。ただし、多くの飲食店が人手不足の状況にあり、業績回復の足かせとなりそう。

全国 外食売上高・客単価
(前年比)



資料：(一社)日本フードサービス協会

【7-9月期売上高】

前年同期比 4-6月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	販売単価	受注残
—	均衡	—	上昇	上昇	—

特別調査 夏のボーナス支給状況

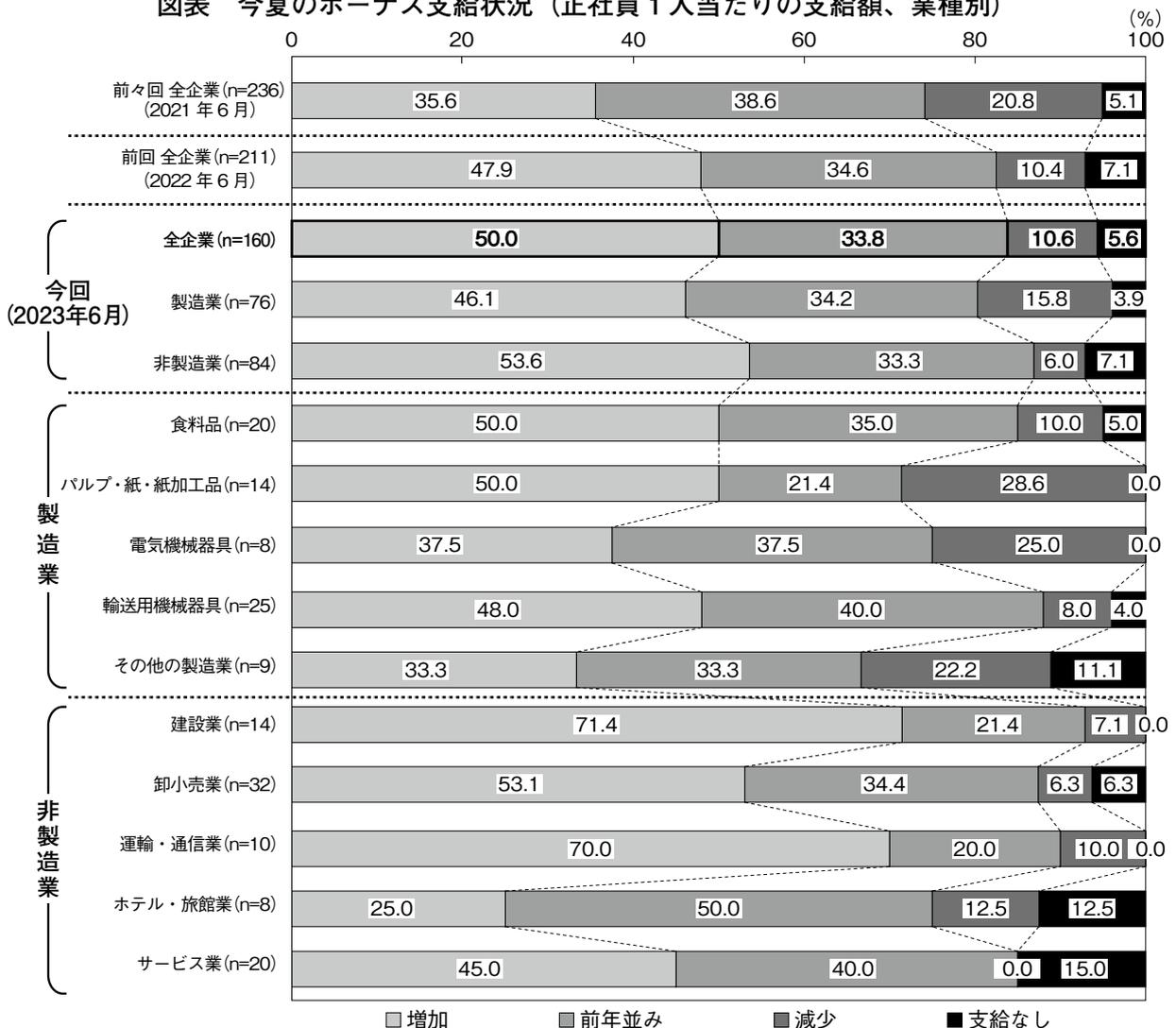
夏のボーナスは半数が“増加”回答、コロナ禍からの回復続く

県内企業に、今夏のボーナス支給について質問したところ、前年より「増加」させると回答した企業が50.0%と半数に達した（図表）。企業業績の改善に伴い、コロナ禍からの回復傾向が続いている。

業種別にみると、「増加」との回答は、製造業（46.1%）よりも非製造業（53.6%）で多く、人手不足が深刻な“建設業”（71.4%）やトラック運転手の待遇改善が課題となっている“運輸・通信業”（70.0%）では7割に達した。一方、「減少」は非製造業（6.0%）と比べて製造業（15.8%）が9.8ポイント高く、“パルプ・紙・紙加工品”（28.6%）や“電気機械器具”（25.0%）、“その他の製造業”（22.2%）で2割以上を占めるなど、業種により差が生じている。

原材料価格の高止まりなど収益的に厳しい状況が続いているが、従業員の経済的負担軽減や人材確保などを目的に、ボーナス支給額を増加させる県内企業が目立つ。

図表 今夏のボーナス支給状況（正社員1人当たりの支給額、業種別）



調査要領：調査時点2023年6月、調査対象企業586社、回答社数160社、有効回答率27.3%